

ユーザー体験価値を設計要件として定義しマネジメントする、 UX設計技術とは。

昨今UXの重要性が声高に叫ばれている中、実際の製品・システム・サービスの設計現場では、ユーザーの利用体験を設計要件として作り込み、品質を検証するプロセスが確立されていないのが現状ではないでしょうか。誰もが、いつでも、どこからでも製品・システム・サービスを利活用するIoT時代だからこそその安心安全で快適なユーザー体験価値を継続的に提供するためのUX設計技術が必要です。

ユーザー体験価値から製品品質を導き、製品・システム・サービスを具体化して提供するには、

- ・ ユーザーの本質的な要求や解決すべき問題を把握するのか。
- ・ ユーザー体験価値を決めるのか。
- ・ 製品・システム・サービスの要求仕様として定義するのか。
- ・ ユーザーの視点からの評価/検証を行い、ユーザーの利用時の品質を保証するのか。
- ・ 発売後のフィードバックを活用し、ユーザー体験を製品・システム・サービスに反映してゆくのか。

など、UX設計技術に関して基本的な考え方や具体的な取り組み方についてご紹介し、参加者の皆さまとの意見交換をいたします。

●受講対象者

製品・システム・サービスの企画、設計、品質保証、顧客対応のマネージャーおよび担当者

●日時・場所

- ・ 3月8日
- ・ 会場 京都 島津製作所本社 本社・三条工場 西館15号・16号
京都市中京区西ノ京桑原町1
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/sanjo.html>
- ・ 時間
午後4時30分 受付開始
午後5時～8時 セミナー（最後の30分交流会に近い質疑応答）

●プログラム

1. はじめに
2. 「ユーザー体験価値を開発プロセスに定着させるためには」
— 最新の国際標準規格を踏まえて考える—
小樽商科大学商学部 平沢尚毅 氏
3. 「UX設計技術とその効果」
一般社団法人UX設計技術推進協会 理事/事務局長
シー・キュー・シー株式会社 代表取締役社長 根本 強一氏
4. 「デザイン思考で客観UIから主観UXへ」
パナソニック株式会社 イノベーション戦略室
ソフトウェア戦略担当理事 梶本 一夫氏
5. 全体質疑応答、意見交換

●参加費

- ・ UXDQ会員、HCD-Net会員、協賛団体会員 3,000円
- ・ 一般 5,000円

講演概要

「ユーザー体験価値を開発プロセスに定着させるためには」

— 最新の国際標準規格を踏まえて考える—

小樽商科大学商学部 平沢尚毅 氏

概要：

ユーザー体験価値（以下UX）は、製品開発側だけでなく、情報デザイン、マーケティングの領域でも日常的に利用されることもあり、広く一般に広がっている。一方、UXを製品・システムにどのようにして導入してゆくかは普及されているとは言い難い。また、ユーザビリティ専門家にとって、UXとユーザビリティはどう違うのか、そして、これらを開発ライフサイクルにどのように組み込んでゆくべきかは関心の高い課題である。こういった疑問に応えるために、国際標準ではどのように整理しているかを解説すると共に、UXを設計プロセスに導入するための指針を最新の規格を踏まえて説明する。

「UX設計技術とその効果」

一般社団法人UX設計技術推進協会 理事/事務局長

シー・キュー・シー株式会社 代表取締役社長 根本 強一氏

概要：

IoT/AIが急速に導入される生活環境において、ユーザーが安心・快適に継続して、製品/システム/サービスを利用する実現するひとつの重要な要素として「UX設計技術」があります。設計現場でUX向上に必要な新しい技術をどう加えるかを追求し、現場に適用することを定着させるために、UX設計技術推進協会を設立しました。良いUXの提供を目標としたシステムやサービスを確実に市場に届けて、ビジネスの競争力をあげることに、それらを使ったユーザーが実際に良いUXを獲得して笑顔が増える。そんな社会の実現を目指していきます。今回は、この協会の活動概要を紹介します。

「デザイン思考で客観UIから主観UXへ」

パナソニック株式会社 イノベーション戦略室

ソフトウェア戦略担当理事 梶本 一夫氏

概要：

戦後復興からの電化の時代の社会環境は工業化社会であった。モノが欠乏し、生活を豊かにするためにはモノで満たせば良い価値観であった。しかし、モノ余りの時代になり、価値も個人ごとに多様化し、解決すべき明確な共通課題が無くなったのが、現在の超スマート社会である。

一方で、技術革新が進み、従来では目的ごとに専用機でないと解決できなかったことが、ハードウェアの性能向上とコストダウンにより少ないハードウェアの種類の組み合わせで解決できるポテンシャルが高まった。そのポテンシャルをうまく利用し世界中で普及したのがスマートフォンである。個人ごとにサービスの多様性を指向したエコシステムが成立していく様子を「デザイン」の視点で解説し、日本企業に遅れている視点をあぶり出す。

申し込み方法：

以下のPeatix経由で申し込みができます。

<https://peatix.com/event/603558/view>

注) 領収書が必要の方は、Peatixの領収書をご利用下さい。

参加して、UX価値を向上させる気づきを得ましょう！



一般社団法人

UX設計技術推進協会

本店住所：〒141-0031

東京都品川区西五反田8-2-12 アール五反田 7B

連絡先 information@uxdq.or.jp

URL：www.uxdq.or.jp